

平成 22 年 6 月 7 日現在

研究種目：基盤研究(C)  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19500801  
 研究課題名(和文) 異校園連携研究におけるミドルリーダーの役割の明確化及び情報共有支援システムの開発  
 研究課題名(英文) Clarification on the role of middle leader and development on system of communication in cooperative study among kindergarten, primary and junior high school  
 研究代表者 小柳 和喜雄 (OYANAGI WAKIO)  
 奈良教育大学・大学院教育学研究科・教授  
 研究者番号：00225591

## 研究成果の概要(和文)：

異校園連携研究に現在取り組んでいる学校園(国内)と海外の日本人学校を訪問調査により、その取組の様子、及びそこでの研究主任の役割について聞き取り調査を行った。結果、学校の規模、立地、伝統、取り組む課題、教員の構成などにより、連携の在り方に4つのパターンがあることが明確になった。また、そこでの研究主任の役割についても、取組みの年次に従って3ステップの力点変化と4つの役割があることがわかった。またこれらの成果をまとめたガイドブックは利用率が高かった。しかし情報交流サイトに関しては、参照率が高いが、交流の活性化にはさらなる工夫が必要であることが明確になった。

## 研究成果の概要(英文)：

It is very important for coordinated guidance by kindergarten, elementary school and junior high school to improve educational power of the school in the region effectively. However, when effective coordinated guidance is done, the approach is different according to the location, the scale, and needs of the school. Then, the role of the middle reader (3 step model and 4 roles) becomes important further in addition to principal's role. The development of the guide book was effective to promote the coordinated practice research at each school. However, to support the school by using the communication site, it was clarified that the device of the moderation was necessary.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学

キーワード：教育工学

## 1. 研究開始当初の背景

平成17年当時、少子化・市町村合併などから生じる学校適正規模に関する諸課題から、そして就学前から小学校にかけて、また

小学校から中学校への移行期にかけて生活面・学習面の段差が引き起こす諸問題から、幼小・幼保小連携、小中一貫、小中連携がより注目されてきた。

このような異校園連携研究は、平成 18 年以降、多くの地域で申請された教育特区の動きにも後押しされ、とくに活発化し、益々注目されてくる研究の位置づけにあった。しかしながら、このような研究を実際に学校で遂行する要となっている研究主任を中心とするミドルリーダーの役割に焦点化した研究は手薄な状況であった。そして、小中一貫、小中連携、幼小連携を試みようとする学校園そしてミドルリーダーにとって実践研究を進める上で必要となる研究情報が手に入りにくい状況になっていた。

そこで、本研究は、1)先行して異校園連携研究に取り組んでいる学校や幼稚園のミドルリーダーが、これまでどのような役割を果たし、現在どのような役割を果たしているのか、学校組織の変化・成長とミドルリーダーの役割、そしてミドルリーダーの成長、及び管理職はそこにどのように関わっているのかを明らかにすること、さらに、2)このような情報が共有できる場所、例えばネットワーク上で研究情報を共有し、離れた地域からもコミュニケーションできるコミュニティサイトの構築、及びその運用方法の解明が、今後、異校園連携研究を進める学校やそのミドルリーダーに必要であるという発想から本研究に着手することにした。

## 2. 研究の目的

そこで、本研究は「異校園連携研究におけるミドルリーダーの役割の明確化及び情報共有支援システムの開発」を目的とした。より具体的には、次の 7 点を明らかにし、連携研究に寄与することを目指した。

- (1)異校園連携研究におけるミドルリーダーの役割の明確化
- (2)求められている情報の明確化
- (3)英・米におけるミドルリーダー養成に関する先進的な取組の情報の収集
- (4)情報を共有し、異校園連携研究を支援するコミュニティサイトの構築
- (5)コミュニティサイトの利用評価・運用評価
- (6)研修ハンドブックの作成
- (7)コミュニティサイトの完成

以上の 7 点を 3 年間の計画の中で明らかにし、開発し、その試行運用評価を通じて、取組みの効果を検討することを目指した。

## 3. 研究の方法

本研究は 3 年間、次のような年次計画と方法で進められた。

### (1)平成 19 年度

①平成 16 年度から継続的に進めている奈良市田原小中学校における小中一貫校の取組、そして平成 17 年度から 3 年間、取組まれた郡山市治道幼稚園と治道小学校の幼小一貫の教育課程研究の取組について、当時

研究をリードしてきたミドルリーダー（教務主任、研究主任）の役割に焦点化して、活動・組織のプロセスを視覚化する。

②上記、調査データを下に、実地調査の枠組みを作成し、平成 18 年小中一貫全国サミットに参加した 21 地域、及び、幼小連携の先行推進校園を訪問調査する。

③諸外国のミドルリーダー養成の動向、養成プログラムについて先進地調査を行う。

### (2)平成 20 年度

①平成 18 年小中一貫全国サミットに参加した 21 地域、及び、幼小連携の先行推進校園におけるインタビュー調査記録と、諸外国における海外調査記録を分析・総合し、日本における異校園研究推進校のミドルリーダーの役割として、1)学校園種ごと、2)課題ごとに、何が各時期に求められているか、どのような点に各ミドルリーダーは困難性を感じているか、それを支援していくために何が必要となってくるか、その観点や具体的な支援内容について明らかにする。

②上記、調査結果についての中間まとめを行う。

③上記、分析結果、及びわかりやすい表現方法についてのアイデア・デザインの仕方（米国・英国の研修プログラム、教材の調査から）を参考に、離れた地域からでも参照、参加可能なコミュニティサイトの構築を行う。

④前年度に調査をお願いした学校園・教育委員会に、異校園連携研究推進コミュニティサイトの利用評価をお願いし、その利用評価結果を収集する。

### (3)平成 21 年度

①20 年度のコミュニティサイトの利用評価結果を受けて、コミュニティサイトの修正、情報やデザインの洗練化を行い、コミュニティサイトを完成させる。

②異校園連携研究推進コミュニティサイトの利用評価を行う

③コミュニティサイトの完成、及び利用評価結果と関わる研究成果報告を行う。

④異校園連携研究を各校園で進めていく際に、活用可能な研究推進支援ワークシート、研修教材、Tips 情報を入れて編集したダウンロード可能なハンドブックを作成し、コミュニティサイトに置き、研究支援、及び普及促進を行う。

## 4. 研究成果

### (1)異校園連携研究動向調査と実地調査

研究目的に則し、先行して異校園連携研究に取り組んでいる学校園の取組の様子、及びそこでの研究主任の役割について聞き取り調査をおこなった。具体的には、2007 年度京都で開催された小中一貫サミットに参加した小中一貫・連携教育に取り組んでいる学校

のうち、特徴を持つ先行的な取組をしている学校を訪問し、聞き取り調査を行った（大阪府柏原市、箕面市、三重県松阪市、伊賀市、京都市、東京都三鷹市ほか）。そして、とりわけ奈良県奈良市田原小中学校で3年間取組まれてきた小中一貫教育の経過について聞き取り調査を行うとともに、そこでの3人の研修主任の取組について時系列にどのような役割が求められたかを分析検討した（小柳和喜雄「異校種連携研究における研究動向」奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要 No. 17, pp. 315-323）。次に、奈良県大和郡山市で3年間取組まれてきた幼小連携教育課程研究内容についても、同様に聞き取り調査を行った。そして、小中一貫・小中連携と共に、幼保小連携の取組も分類整理した内容をガイドブックの形でまとめ、その成果を明らかにするように努めた。（小柳和喜雄「異校種連携教育推進ガイドブック（イントロダクション編）」奈良教育大学）。

#### (2) 日本人学校における小中連携実態調査

次に、小中連携に関わって早くから必然的に、かつ意識的に取組の工夫を行ってきている日本人学校の小学部と中学部の連携の取組（大規模：バンコク日本人学校、ロンドン日本人学校、中規模：デュッセルドルフ日本人学校、ホーチミン日本人学校、ミラノ日本人学校、小規模：グアム日本人学校、メルボルン日本人学校、釜山日本人学校、チューリッヒ日本人学校）を实地調査し、その取組の特徴、日本の異校種連携教育研究に活用可能な点の整理を行った（小柳和喜雄「幼小・小中連携教育および一貫教育等に関する調査研究」奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要（18）, pp. 261-267）。

#### (3) ミドルリーダーの役割の視覚化

そして、このような連携に取り組んでいる学校で重要な役割を果たしているミドルリーダーの役割について国内国外の取組について实地調査と文献調査を行い、各研究遂行時期におけるミドルリーダーの役割のモデル化を行った（小柳和喜雄「学校における教員のICT活用指導力向上研修に関する事例研究—研究主任の役割を中心に—」奈良教育大学紀要（人文社会科学）57（1）, pp. 199-210. 小柳和喜雄「ミドルリーダーのメンターリング力育成プログラムの萌芽的研究」奈良教育大学教職大学院研究紀要 学校教育実践研究 第1号, pp. 13-24.）

奈良市教育委員会、奈良県教育委員会と共に、様々な立地形態の下での、小中連携・小中一貫教育についての実践的な課題を明らかにするとともに、遂行していくための条件やモデルを明らかにした。また柏原市教育委員会とは、幼小連携に向けた教育課程試案を共同開発した。

そして、2008年度京都（2009年1月）で

開催された小中一貫サミットに参加し、先進的な取組及び、萌芽的な取組、また具体的な成果を上げている取組の情報収集を行い、参加している学校の関係者に詳細な情報の確認を行った。

#### (4) 異校種研究と学力向上の関係の探求

21年度は、奈良市に加えて、とりわけ松阪市と連携し、授業研究や实地調査、学習会、そして研究会議を行い、立地や規模、また各学校の特色を活かす取組遂行におけるミドルリーダーの役割の整理とモデル化を試みた（「異校種連携教育推進ガイドブック実践ファーストステップ編」『学びの連携実践報告集』（松阪市教育委員会22年1月））。次に、ICTの効果的な活用や情報教育で小中連携を試みようとする学校をより支援していく方法を詳細化していくために、子どものニーズや行動、それに対する教員のズレ、また将来教師を目指す教員養成学生のズレを調査により明らかにし、その結果をEuropean Educational Research Associationの年次国際会議で発表し、その取組の評価を得るとともに、合わせてヨーロッパでの小中連携の試みやミドルリーダーの役割などについて情報収集を行った。

#### (5) 小中連携の教育方法に関する実態調査

また、学力向上の取組で試みられてきた少人数指導に目を向け、県内すべての学校を対象に調査を行い、少人数指導の成果と課題を明らかにした（奈良県教育委員会のwwwで公開予定）。これにより中学校区として学力向上に効果的な成果を出している取組の特徴を、少人数指導の効果的な活用の視点からも考察し、小中連携の取組の1つとして、少人数指導の持ちうる可能性を検討した。そして効果的に小学校と中学校で連携をしていく際の具体的な取組として、教育方法の工夫（少人数指導に固有な教育方法の知見を小中学校で共有し、活かしていく）、及び、それを進める際のミドルリーダーの役割についても検討を行った。

#### (6) 情報共有・交流サイトの構築

さらに異校種連携教育を推進するための情報共有サイト設計と掲載する素材・環境の準備を行った。これまでの研究経過や結果から得られた情報を情報共有システムに掲載し、まず閉じた環境で協力者から利用に関する声を聞き取り、情報の精選と編集作業を行った。そして、最終的にこれまで研究協力者や学校との間だけでクローズで行ってきたネットワークによる試行を、オープンにするための情報精査やインタフェースの見直し作業を行った。

以上、研究成果として明らかになった、1) これまでの調査結果報告、2) 異校種ガイドブック、3) Q&A、4) ミドルリーダーのための悩み相談コーナ、5) 他の地域・学校での取組情

報、6)コミュニケーションルーム、を柱とした情報共有支援システムの開発の公開を行った。

(<http://oyanagi-lab.com/ikouen/index.htm>)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 10 件)

- ① 小柳和喜雄、教師の資質能力としてのデジタルポジションに関する予備的研究、奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要、査読有、19 号、2010、153-160
- ② 小柳和喜雄、教員の受容変動と「質保証」、日本教師教育学会年報、査読有、18 巻、2009、38-48
- ③ 小柳和喜雄、ドイツにおける教師の ICT 活用指導力育成の取組みに関する研究、奈良教育大学紀要、査読有 58(1)、2009、157-167
- ④ 小柳和喜雄、幼小・小中連携教育および一貫教育等に関する調査研究、奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要、査読有、18 号、2009、261-267
- ⑤ 小柳和喜雄、ミドルリーダーのメンターリング力育成プログラムの萌芽的研究、奈良教育大学 教職大学院研究紀要 学校教育実践研究、査読有、1 号、2009、13-24
- ⑥ 小柳和喜雄、学校における教員の ICT 活用指導力向上研修に関する事例研究 — 研究主任の役割を中心に —、奈良教育大学紀要、査読有、57(1)、2008、199-210
- ⑦ 小柳和喜雄、学校外の子どものメディア利用を授業へ組織化する方法に関する研究、日本教育メディア学会 教育メディア研究、査読有、15(1)、2008、29-40
- ⑧ 小柳和喜雄、異校種連携研究における研究動向 — 小中一貫・小中連携教育を中心に —、奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要、査読有、17 号、2008、315-323
- ⑨ 小柳和喜雄、メンターティーチャー・ハンドブックの開発研究 — 媒介目標を用いた実習校担当教員と大学の指導教員の連携指導を目指して —、査読有、17 号、2008、177-183
- ⑩ 小柳和喜雄、フィンランドにおける教師教育改革の背景と現状、及びその特徴の明確化に関する研究 — 教職大学院のカリキュラム構築への示唆 —、奈良教育大学紀要、査読有、56(1)、2007、193-203

〔学会発表〕(計 8 件)

- ① Wakio Oyanagi, ICT for Reading Literacy at School and Kindergarten in Japan — Investigation of Digital Literacies —, European Conference on Educational Research (ECER) 2009、

9. 29. 2009, 9. 29. 2009, Vienna, Austria
- ② 小柳和喜雄、異校種連携教育に関する調査研究、日本教育工学会研究、12. 20. 2008、いわき明星大学
- ③ 小柳和喜雄、学部から大学院につながる体系的な ICT 活用指導力の養成に関する研究、日本教育工学会、10. 11. 2008、上越教育大学
- ④ 小柳和喜雄、ドイツにおける教師の ICT 活用指導力育成の動向、日本カリキュラム学会、7. 6. 2008、鳴門教育大学
- ⑤ Wakio Oyanagi, ICT for Reading Literacy at School and Kindergarten in Japan, Proposal for the invited session: The assessment of reading literacy in ICT-based contexts. The 6th International Conference on Education and Information Systems, Technologies and Applications: EISTA 2008、6. 30. 2008, Orlando, Florida, USA
- ⑥ 小柳和喜雄、異校種連携研究における研究主任の役割に関する研究、日本教育方法学会、9. 30. 2007、京都大学
- ⑦ 小柳和喜雄、メンターティーチャー・ハンドブックの開発研究 — 媒介目標を用いた実習校担当教員と大学の指導教員の連携指導を目指して —、日本教師教育学会、9. 29. 2007、鳴門教育大学
- ⑧ 小柳和喜雄、学校組織の成長とつなげた教員の ICT 活用指導力研修、日本教育工学会、9. 24. 2007、早稲田大学

〔図書〕(計 1 件)

小柳和喜雄、教師の情報活用能力育成政策に関する研究、風間書房、2010、402 ページ

〔その他〕

ガイドブック等

- ① 小柳和喜雄「異校種連携教育推進ガイドブック (イントロダクション編)」奈良教育大学
- ② 小柳和喜雄「異校種連携教育推進ガイドブック (実践ファーストステップ編)」奈良教育大学

ホームページ等

<http://oyanagi-lab.com/ikouen/index.html>  
(異校種連携教育支援研究のサイト)

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

小柳 和喜雄 (OYANAGI WAKIO)

奈良教育大学・大学院教育学研究科・教授  
研究者番号：00225591